リウマチ便り

西の京病院　vol.13
2021年11月1日
文責：森

前回当院でリウマチ治療をしている先生たちを紹介しました。
さらに２名の先生が仲間入りしました。
早速いろいろ質問してみました。

パンナ

内科：加藤先生

整形外科：城崎先生

質問１：リウマチ専門医になろうと思ったきっかけはありますか？

免疫学に興味があった。関節リウマチは全身性の疾患で専門性があり、一般的な立場で語れる所に魅力があった点に惹かれた。

福居先生の手の手術を見学して、自分も関節リウマチ患者さんの手の手術に関わりたいと思った。

質問２：リウマチ診療を行うにあたり気をつけていることはありますか？

身体所見や血液検査を重視するようにしている。
なるべく小さな異常を見つけてはやく手を打てるように気をつけている。

患者さんへの言葉使い、特に診断するときは注意している。
無症状でも合併症が起こっていないか注意して診ている。

質問３：リウマチ診療でのご自身の信条があれば教えて下さい。

まず患者さんの身体所見にカギがある。
丁寧で患者さんの気持ちによりそった診療をする。

月１回の診察と３か月に１回の各種検査を行う。

質問４：今後リウマチ診療を行うにあたりしてみたいことはありますか？

臨床的な論文を作成し、関節リウマチ患者さんに還元したい。

飲む生物学的製剤と言われている薬 JAK 阻害薬を中心とした飲み薬で治療していきたい。

質問５：リウマチ便りを発行しています。
読んでいただいてどうでしたか？

長く続いていて内容もまとまっていて
非常に良いです。

加藤先生、城崎先生ありがとうございました。
これからのリウマチ診療をよろしくお願いします。

皆さんはコロナワクチンを接種しましたか？
よく診察室で主治医に対して、「ワクチンしたほうがいいですか？」「怖いので接種しません」と話している方がいます。
ワクチンは何のためにするのでしょうか？

ワクチンは感染症に対する免疫をつける、感染症自体の発症や重症化を防ぐことを目的に接種します。また多くの人がウィルスへの抗体を持つことで、社会全体で流行を防ぐ「集団免疫の効果」があります。

またワクチン接種をした方の中には、マスクをせず外出をしても良いと考える方もいるかもしれません。まだまだ接種していない方が多いため外出の際は必ずマスク着用してください。

新型コロナウィルス感染症 COVID-19 の第５波は落ち着きました。

緊急事態宣言も解除になりましたが、いつ第６波が来るかわかりません。
咳や痰が長く続くときは早めに主治医に相談してください。
感染を予防するためにマスク着用（不織布）、手洗い、うがい、手指の消毒、不要不急の外出の自粛、そして「三密（密閉・密集・密接）」を避けてください。
あなたの平熱は何度ですか？
自分の体調を知るために毎日体温を測ることはとても大事です。
関節リウマチの患者さんの治療薬は免疫を抑えます。
その為、病気になると重症化しやすいので、日々の体調管理をしっかり行ってください。

パ　ン